

1 廿日市市の概況

(1) 歴史的沿革

江戸時代に広島西部の経済や文化の中心地として栄えた廿日市は、近代になっても佐伯郡役所が置かれ、佐伯郡の中枢としての役割を担ってきました。

昭和31年に1町4村が合併した後、山陽自動車道の整備や大規模住宅団地の開発などが相次ぎ、広島都市圏西部地域の拠点として、都市機能を高めていきました。人口の急激な増加や都市化の進行に伴い、都市規模に適応した行政体制を確立するため、昭和63年4月1日に市制を施行しました。

広域行政、広域合併への取り組みとして、平成15年3月に佐伯町及び吉和村と、平成17年11月に大野町及び宮島町と合併し、海から山までの豊かな自然、悠久の歴史と伝統、多様な産業・文化に恵まれたまちとなっています。

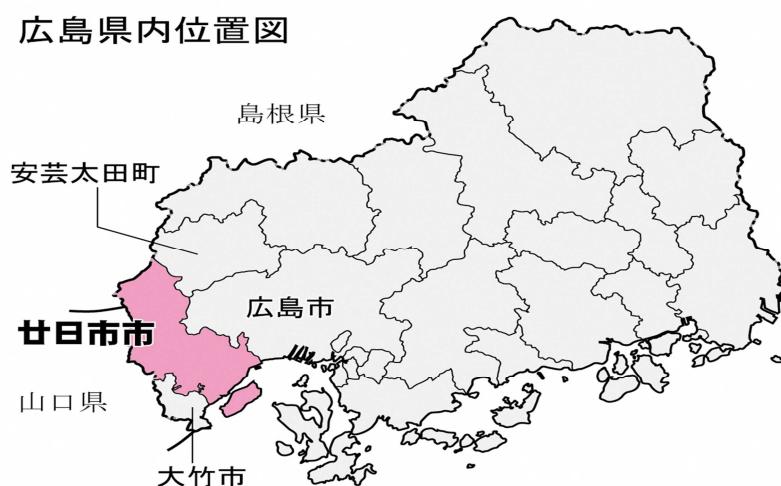
(2) 位置・地勢

廿日市市は、広島県の西部に位置し、北は島根県及び山県郡、東は広島市、西は山口県に接し、南は瀬戸内海に面しています。

面積は489.49平方キロメートルで、広島県の総面積の5.8パーセントを占めます。

山間部は、十方山や冠山などの連峰が西中国山地を形成し、その一部が西中国山地国定公園に指定され、太田川水系沿いに小盆地が形成されています。内陸部は、小瀬川水系沿いに平坦地が帯状に形成されています。沿岸部は、丘陵地帯とその間から流れる可愛川、御手洗川、永慶寺川等により形成された沖積平野や狭いデルタ及び海岸部の埋立地から構成されています。島しょ部は、周囲約30キロメートルでほぼ長方形を成し、島全体が特別史跡及び特別名勝、瀬戸内海国立公園、風致地区（伝統的建造物群保存地区を除く。）に指定され、その中に弥山、駒ヶ林が連なり、急峻な山肌を見せてています。

広島県内位置図



(3) 気候

島しょ部及び沿岸部は、瀬戸内海式気候に属し、温暖な気候で、冬期も積雪はほとんど見られません。

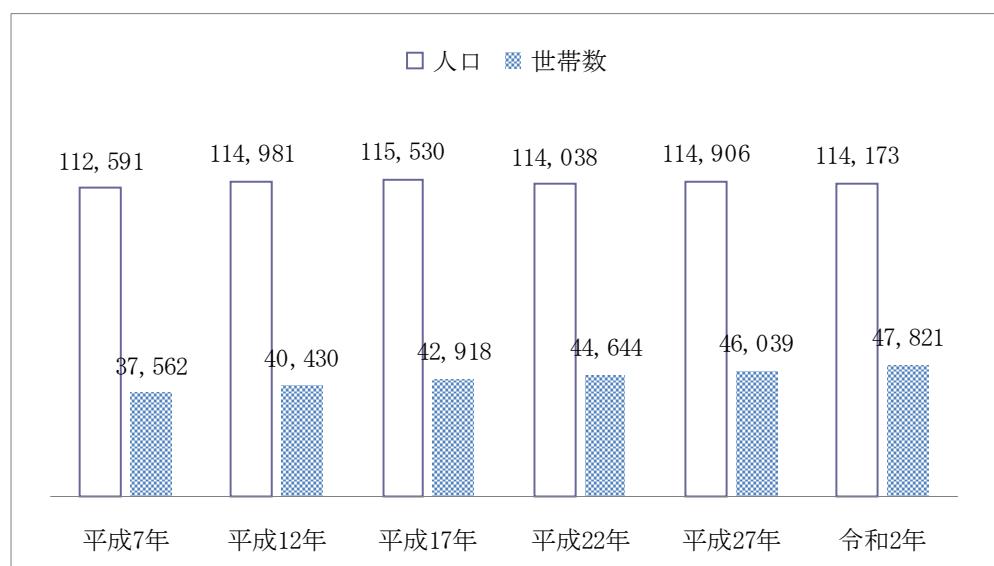
内陸部は、冬期は一部地域で積雪があるなど高地の影響を受け、山間部は、冷涼多雨で豪雪地帯に指定され、夏期は過ごしやすいですが、冬期は平地でもかなりの積雪となります。

(4) 人口・世帯数

廿日市市的人口は、平成17年までは増加傾向にありましたが、近年は横ばいで推移しています。世帯数は、一貫して増加傾向にあり、令和2年には47,821世帯となっています。

人口及び世帯数の推移

(単位：人、世帯)



※ 合併前の旧佐伯町、旧吉和村、旧大野町及び旧宮島町を含む。

資料：国勢調査